

○白石市印鑑の登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例

今年度導入予定のマイナンバーカードを利用したオンライン申請に限り、印鑑登録証明書の交付を申請する際に必要な印鑑登録証の提示を不要とし、郵送により交付するため、条例の一部を改正するものです。

予算

○令和5年度白石市一般会計補正予算(第6号)

これまでの歳入歳出予算にそれぞれ10億7千831万8千円追加し、予算総額を192億1千61万7千円とするものです。主な内容は次のとおりです。

- 病院事業会計出資金 8億7千170万円
- 畜産振興事業 1千108万2千円
- 白石蔵王駅発車ベル改良事業(市制施行70周年記念事業) 113万8千円
- 白石スキー場車庫復旧事業 7千922万9千円

○道路維持補修費(除雪関連経費) 6千781万7千円

○スパッシュランドパーク花木植替事業 150万円

○益岡公園トイレ改修事業 715万円

○中央公民館駐車場整備事業 650万円

○令和5年度白石市一般会計補正予算(第7号)(定例会最終日提案)

令和4年3月の福島県沖地震で被災したホワイトキューブの災害復旧に係る費用として、これまでの歳入歳出予算にそれぞれ17億7千231万6千円追加し、予算総額を209億8千293万3千円とするものです。

本会議質疑より

○令和4年度白石市一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定について

〔質疑〕新型コロナウイルスの感染拡大、ウクライナ侵攻の影響による物価高が市民生活

に大きな影響を及ぼした令和4年度であった。第六次白石市総合計画2年目として、さまざまな施策を推進してきたが、結果的に実質単年度収支額で7億3千276万2千円の赤字計上となった。

この結果をどのように総括しているか伺う。

〔答弁〕前年度に引き続き、新型コロナウイルス対策と物価高騰対策、令和3年・4年の福島県沖地震、公立刈田総合病院の運営形態見直しなど多くの課題に取り組み、大きな成果を上げた一年と考えている。

赤字の主な要因は、公立刈田総合病院への負担金・補助金・出資金が、合計16億8千30万円となったことである。これまで公立刈田総合病院は、構成市町からの多額の繰入金前提の経営を行い、市の財政運営も不安を抱え、先が見通せなかったことから、令和4年度末で白石市外二町組合を解散し、公設民営化を図ることになった。

これにより組合解散に伴う臨時的な繰出金が増加したが、今後の市の財政負担は、企業債

償還、指定管理者委託料、交付金等に絞られ、病院運営における赤字分の負担がなくなることから、明るい将来展望が見えた決算であったと受け止めている。

〔質疑〕公立刈田総合病院の公設民営化、不登校特例校(通称白石きぼう学園)の開校、スマートインターチェンジ周辺の整備など、将来に向けて大きく動き出した1年だったと思うが、所感を伺う。

〔答弁〕さまざまな課題に積極果敢にチャレンジしていくことが重要であり、国全体がさらに人口減少、少子高齢化が進んでいく中において、持続可能な白石市を何としても作り上げていかなければならない、これが根本的なスタンスである。

次の世代に借金や課題を先送りすることなく、将来に向けて市民の協力・理解をいただきながら、さまざまな市政課題に取り組んでいきたいと考えている。

公立刈田総合病院の公設民営化に向けた見通しをつけることができたこと、また、全国的に不登校の児童・生徒が増え

る中、本年4月から全国3番目となる小中一貫の不登校特例校を開校するため準備をしていた。通称白石きぼう学園には、市外からも家族で移住して通っている子どももいる。

より充実した地域医療、教育・子育ての環境を整備していくことにより、「選ばれるまち白石市」になっていくものと確信している。

○令和5年度白石市一般会計補正予算(第7号)(定例会最終日提案)

〔質疑〕ホワイトキューブの災害復旧工事について、いつ頃の完成を目指しているか伺う。

〔答弁〕安全を最優先に、市制施行70周年の記念事業の開催に間に合わせるよう、できる限り早い復旧を目指していきたい。

国の補助の関係から、原形復旧を基本とするが、現在の建築基準をクリアし、音楽ホールとしての特性や建築的な価値も考慮しながら進めていきたい。